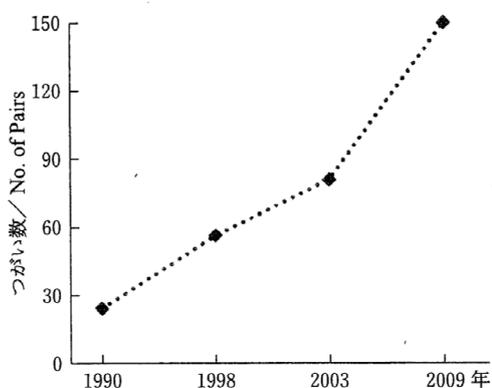


2) 北海道における海ワシ類の繁殖状況

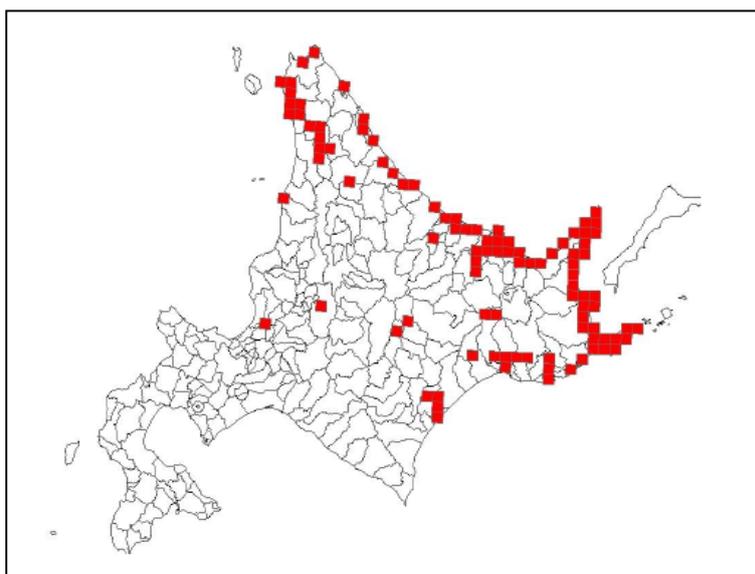
(1) オジロワシ

北海道はオジロワシの極東地域における繁殖地の南限となっている（白木、2013a）。繁殖期の正確な生息数は不明であるが、2009年には約150つがいの営巣が確認されており、少なくとも過去20年間の営巣地数は増加傾向にある（白木、2013a）（図2-2-1-1）。営巣地は北部から東部の海岸線、特にオホーツク海沿岸から知床半島、根室半島にかけて多く、中央部から南部にかけてはほとんど確認されていない（図2-2-1-2）。



(注)1990年はアンケート調査、それ以外は現地調査による結果を示す。

図 2-2-1-1 北海道におけるオジロワシの営巣つがい数の経年変化(白木、2013a)



(注)地図上に営巣地を1つ以上含む10kmx10kmの赤いメッシュを示した。

図 2-2-1-2 2008年の繁殖期に確認されたオジロワシの営巣地の分布(白木、2013a)

知床半島で繁殖したつがいについて、繁殖成功率を調べた結果、16年間（1988～2003年）で平均76.4%、つがいあたりの巣立ちヒナ数は1.00羽であり、近年の営巣状況は比較的良好であると報告された（白木・中川、2005）。開発事業における環境アセスメントが慎重に行われるようになってきたことも、営巣環境の改善につながったという指摘もある。

しかし、2008～2010年のモニタリング調査結果によると、特にオホーツク海沿岸などでは繁殖成功率の低い状態が続いているという（白木、2013a）。また、2013年の知床半島では、春先の大雪・突風のため巣が落下するなどして、繁殖成功率は30%ほどに落ち、巣立ち幼鳥数も通常の3分の1に減ったという。

本来オジロワシは、林縁部や密度の低い林内、海岸に面した急な斜面林など、周囲が開けた場所に生える大径木の樹上に好んで営巣する（Shiraki, 1994）。しかし、近年できていく新しい営巣地は、道路際や市街地周辺、またはそれらに隣接した林にあることが多いため、営巣したとしても人間活動の影響を受けやすく、繁殖成績も不安定になりがちであると指摘されている（白木、2013a）。

(2)オオワシ

知床で夏季に若鳥が観察されたことはまれにあるが（中川、1999）、日本ではオオワシは冬鳥であり、国内での繁殖記録はない。